２００８年6月３０日

全国犯罪被害者の会（あすの会）
代表幹事　岡村　勲　様

東京都中央区築地５－３－２
朝日新聞社
役員待遇広報担当　松本　正

冠省

貴会から弊社社長秋山耿太郎宛に、０８年６月２５日付で「抗議および質問」をいただきました。職掌上、広報部門の責任者である私から回答させていただきます。

１．法相の死刑執行への署名が法律に基づくものであることは言うまでもありません。朝日新聞社は死刑廃止の立場はとっていません。そのうえで、死刑は人間の生命を断つ究極の権力行使であるため、執行にあたっては慎重のうえにも慎重な対応を求めてきています。

鳩山法相は６月２０日の記者会見で死刑執行への署名について「心境おだやかではない」「苦しんだあげくに執行した」と述べておられます。その法相の思いは十分に理解しております。

一方で、法相は昨年９月２５日の記者会見で、「半年以内に死刑は執行されねばならないという規定が自動的に進むような方法はないのか」と語った後、「ベルトコンベヤーと言ってはいけないが、順番通りということなのか、それとも乱数表なのか、わからないけれど」と述べています。その発言の後、ほぼ２か月間隔で死刑の執行を命じ、就任から１年足らずで１３人の死刑が執行されました。

死刑の執行にかかわる鳩山法相のこうした一連の言動や歴代法相の中でも死刑執行件数が多くなっている点などを踏まえ、社会の様々な出来事を短行で批評する「素粒子」筆者の視点から、「永世死刑執行人」「死に神」という表現を用いました。

２．「永世死刑執行人」「死に神」という表現は鳩山法相の死刑にかかわる一連の言動に基づいて批評したものであって、被害者遺族やその他の方々に対するものでは決してありません。これに対し、貴会から「抗議および質問」をいただきました。今回のコラムが犯罪被害者遺族にどんな気持ちを起こさせるか考えなかったのか、というご質問ですが、皆様のお気持ちに思いが至らなかったといわざるをえません。ご批判を厳粛に受け止め、教訓として今後の報道に生かしていきます。

朝日新聞社はこれまで犯罪被害者の皆様が置かれている状況を重視し、その報道に力を注いできました。それだけに今回、貴会から抗議をいただいたことは誠に残念です。ご指摘いただいた内容を社内に周知します。

3．鳩山法相を中傷する意図は全くありませんでした。法相が「侮辱」「中傷」とお受け取りになったとすれば、残念です。

4．死刑執行件数の多さとほぼ２か月間隔で死刑が執行されたことを「素粒子」が取り上げたのは、第１のご質問に対する回答でご説明した通り、鳩山法相の一連の言動を踏まえてのものでした。

ご理解いただきたく、お願い申し上げます。

草々